



# けやき

発行責任者 校長 西原 良一



## 1年間の成長を確認しよう

今日で平成30年度が終わります。生徒の皆さんにとって4月からの1年は、どんな1年間だったでしょうか？

私たちには、元日からスタートする節目があり、その前後に1年をふりかえり、新しい年に向けて気持ちを新たにすることを行いますが、もう一つの節目である3月～4月にかけてのこの時期の方が、学校や企業にとってはより意味深い節目と言えるのではないのでしょうか。

1年生。4月にまだ着慣れない制服に身を包み、期待と不安を胸に中学校生活が始まりました。勉強、部活動だけでなく、運動会や文化祭（合唱コンクール）など小学校とは違う行事を経て様々な経験を積んできました。

2年生。「先輩」と呼ばれることに嬉しさと気恥ずかしさがあったのもしばらくの間で、先輩としてしっかり1年生をリードし、3年生をサポートしました。宮っ子チャレンジウィークでの経験を通して、働くことの厳しさを知ること、大人へと一歩近づきました。また、立志式の時に読んだ親御さんからの手紙を見て、親御さんへの感謝の気持ちを更に大きくしたことでしょ。

そう、確実に皆さんはこの1年間で成長しています。この春休み中に、是非、自らの成長を確認してみてください。

自分が思っていたよりも多くの点で成長しているかもしれません。もし、期待に反して、あまり成長している点が見つけられなかったとしても、落ち込む必要はありません。4月からの伸びしろが多いと思えばよいのです。

とにかく、少しの不安があったとしても、そんなものに負けることなく、大きな希望と意欲をもって、新年度初日（4月8日）に元気に登校してきましょう。



# いい卒業式でした

3月11日(月)、第54回の卒業式が行われました。前日の夜からの雨で校庭はぬかるみ、卒業生が登校する時間にも、まだ雨が降り続くというあいにくの天候でしたが、式そのものはとてもいい卒業式でした。

卒業生は、担任の呼名に対してしっかりと返事をして壇上に登り、卒業証書を受け取り、自分の席まで肅々と戻る、厳かな卒業証書授与でありながら、若々しさが感じられる、そんなひと時でした。

卒業生の態度が立派であったのは当然のこととは言え、本当にこの日の主役にふさわしいものでしたが、参加した在校生の態度もまた大変立派であったことが、式を素晴らしいものにしてきていました。式中の所作だけでなく、式歌や校歌もこれまでにないほど大きな声でしっかりと歌われ、在校生による送辞、卒業生による答辞も、それぞれの思いがこもった心に残るようなもので、校長として、嬉しく、また誇らしい卒業式であったと思っています。

卒業していった生徒たちには、これからの新たな環境での生活の中で、精一杯頑張ってもらいたいと思いますが、同様に、この後の上河内中学校を担う1・2年生にも、卒業式で見せてくれた頼もしさを今後もいろいろな場面で見せてくれることを期待しています。



## こんな活躍をしている生徒もいます

2年生の並木碧飛さんは、ショートトラックスピードスケートの選手として、各種大会で好成績を収め、2月には長野県で開催された日本スケート連盟主催の有望新人育成研修会にも参加しました。参加前に彼に競技について思うことを聞いてみました。

私がショートトラックスピードスケートに対して思うことは2つあります。

1つ目は、そのスピードです。ショートトラックスピードスケートは氷上の競輪と呼ばれていて、私もそのスピードに爽快感を覚えています。

2つ目は、中学3年生から出場できる国民体育大会に出場したいということです。それもただ出場するだけでなく、決勝や結果をしっかりと残せるようにしたいので、今、基本などを氷上ではなく陸上トレーニングをしています。私がこれから行く新人育成研修会では、私よりも速いし上手な人がいるのでその人の技術を盗めるように頑張っていきたいと思っています。

